

三重県・実験つき衛生講演会

薬学雑誌 1909 年度 960 頁

100 年前の人々は、死と病気について今以上に関心が高い。しかし江戸時代からの迷信も強く、当局は新しい衛生思想の普及に努めている。三重県衛生課も、公衆衛生の講話会を各地で開いた。ところが、その効果がいまひとつだったので、関連物品の陳列と簡単な実験も一緒に見せる企画を立てた。

明治 42 年 6 月 26 日。伊賀上野。会場となった大江座の入り口に、会名を染め抜いた紫の旗が交差して立てかけられると、朝 8 時の定刻前というのに、付近村落からつめかけた男女老幼が集まってきた。雨の中、皆、草靴履き、弁当持参である。教員に引率された生徒たちもいる。

大江座の本舞台から広場には、理化学試験器具、医用器具、消毒材料、薬品、2 階にはペスト菌、赤痢菌などの標本、印度蚤、牛乳試験装置、甘味料、着色料、清涼飲料水、図解と分析表、統計表、そして 3 階は結核、ハンセン病に関する

標本、図解、不良薬品、食器、玩具が並べられた。とくに人気のあったのが 4 台の顕微鏡。伝染病を媒介するハエの脚や染色した痰を見せた。講話は、「飲料水と防腐剤」「結核・らいの予防」「トラホーム・花柳病」など。混雑のなか、警官十数名が整理に当たった。

夕 5 時閉会の予定が、当地の田中某から臨時電灯増設の寄付があり、説明者、講演者は昼の疲れもいとわず要求を入れ、閉会は深夜 11 時。来観者は 2 日で 7,000 人。

出品目録の器機の中には、ビベットや乾熱滅菌器に混じって、捕鼠器 6、義眼数種、軽便産婆器 1、便器 2、痰つぼ 5、なんてのものもある。アルコール漬け標本には、鼻茸、コンジローム、胎児、水晶体、酒飲みのみ臓腎臓、卵巣嚢腫、鼠の糸虫、などがあつた。淋病患者の尿をもって洗顔したる結果破潰性眼炎を発生し摘出したる眼球 1、胎児模型 8、露人の頭蓋骨 1、結核牛の耳環 1、梅毒の図 8、も目をひく。

さらに 7/10~11 四日市で 6,200 人、7/14 河芸郡神戸で 2,400 人、7/25~28 宇治山田で 4,100 人、7/31 度合郡田丸で 2,400 人、合計 2 万 2 千人を集めた。

小林 力